

令和元年度第6回 感染症発生動向調査部会

令和元年9月18日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2019年第31週～第35週・8月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は49例あり、毎週コンスタントに報告された。年齢別分布では70歳以上が7割強占める。この傾向は年々著明になっているようである（2017年：56.9%，2018年：59.2%，2019年63.1%）。
- ・腸管出血性大腸菌感染症は19例報告された（対前年比：195.5%）
- ・レジオネラ症は、毎週コンスタントに報告された。
- ・五類感染症
 - ・毎週コンスタントに報告された疾患は、百日咳のみ。
 - ・百日咳は、前年と比較して2倍弱の報告数がある。複数回のワクチン接種があっても、罹患している症例が多い。
 - ・風しんの報告例はなかった

<定点把握対象疾患>

- ・RSウイルス感染症は、著増している（前月比：501.9%）。
- ・感染性胃腸炎は、毎週コンスタントに報告されているが、いささか減少傾向にはある。
- ・手足口病、ヘルパンギーナは、収束傾向にある（各々前月比：33.4%，55.9%）。
- ・伝染性紅斑は、週毎の報告数は多くはないが（n=30-40）、前年同期と比較すると1079.6%と多くなっている（前前年比では1889.4%）

2 検討すべき課題

- ・結核について（澤田委員）
 - 高齢化？（日本の高齢化による？）
- ・百日咳について（澤田委員）
 - ワクチンを接種しても発症する？
- ・感染症発生動向調査の病原体サーベイランスについて（事務局）
 - 患者の検体を確保し、地方衛生研究所および国立感染症研究所で病原体検査を実施しているものについて、医療関係者と情報共有が必要。

3 情報提供すべき事項

- ・RSウイルス感染症について（澤田委員）
 - 県内の患者発生状況

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・特になし

5 前回までの検討結果を受けた実績等

- ・結核

ぎふ感染症かわら版（結核予防週間）発行予定

外国人を雇用する者に対する啓発資料（保健医療課作成）を10月開催の技能実習生受入企業等を対象とした講習会で配布予定

- ・百日咳

医療関係者向け情報を発行予定

<検討結果>